

TOPICS
3ペガサスグループ
岡田玲一郎先生の職員研修個人と組織の力を高めるために、
岡田先生に学んでいます。

7月27～30日、岡田玲一郎先生による職員研修が行われました。これは、20年ほど前から日米の医療事情に詳しい岡田先生（社会医療研究所所長）を招き、毎年数回開催されるもの。現在は、新入職員向けに年1回、管理職、主任・副主任、リーダー、そして医師向けに年2回行われています。

7月の研修では、岡田先生が受講者のレベルに応じて、



現在の医療の流れを講義。加えて、グループでディスカッションをしながら、一つのもの創り上げる協力ゲームや、3年後の組織や自分を考えるグループワークなどが行われました。

参加者は、意見を出し合いながら物事を進めていくことの大切さを学んだり、組織づくりや将来の自分についての気づきを得るなど、非常に有意義な研修となりました。

TOPICS
4ペガサスグループ
第2回法人全体研修職員の意識を統一し、
一貫したサービスを提供します。

ペガサスでは、6月10日に平成27年度第2回法人全体研修を行いました。これは、グループすべての職員が参加できるよう、年度ごとに毎月一回ずつ、同じテーマで開催されるもので、これからのペガサスがめざすべき方向性の共有と意識統一を図ります。

今年度の研修では、今後の医療施策や大阪府の状況、

そして、それに対応するペガサスの取り組みなどを講義。職員にとっては、常に意識しておくべき医療界の流れやペガサスの方向性を再確認するきっかけとなり、改めて、所属部署や自らがどうあるべきかを見つめ直すものとなりました。

ペガサスでは、法人全体研修を通じて、医療や介護の理解を深め、患者さまに質の高いサービスを一貫し提供していきます。

ペガサス医療体験デイ
就活バージョン

毎回好評の「ペガサス医療体験デイ 就活バージョン」。看護師、リハビリテーションスタッフ、薬剤師、介護職員をめざす学生の方や既卒の方を対象に、院内体験見学や就職についての説明会を開催しています。お気軽にご参加ください。お問い合わせ/TEL:072-265-9089

ペガサス 看護師 検索

正職員採用 私たちと一緒に働きましょう。
介護職員募集中! —— 随時受付しています。

ペガサスでは今、介護職員を募集中です。いつでもご連絡いただければ、ペガサスグループの施設見学などへご案内します。どうぞお気軽にお問い合わせください。お問い合わせ/馬場記念病院 人事課 TEL:072-265-9089

ペガサスグループ 株式会社ユニコ

紙おむつを販売しています。
堺市の紙おむつ給付券が使えます。
お問い合わせ/TEL:072-263-3001

PEGASUS
NEWS

ペガサスニュース

発行人/馬場武彦
発行/社会医療法人ペガサス
大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244
http://www.pegasasu.or.jp/
編集/ペガサス広報委員会 編集グループ
編集協力/HIPコーポレーション
発行/平成27年9月11日

Vol.68

ペガサスから地域の皆さまへ

認知症を理解し、
地域で支えるための
＜認知症サポーター＞を育てます。

現在、厚生労働省は、認知症の方が安心して暮らせる地域をつくるため、認知症を正しく理解し、認知症の方やご家族を支援する「認知症サポーター」の育成と普及に取り組んでいます。このサポーターを養成するのが、「認知症サポーター養成講座」です。受講者は、そこで正しい知識や適切な対応などを学び、受講後には、サポーターの証として「オレンジリング」が授与されます。



今回ペガサスでは、この認知症サポーター養成講座の講師を養成する「キャラバンメイト養成研修」に、医療ソーシャルワーカーの丸山秀幸が参加しました。6月21日、堺市により、堺市総合福祉会館で開催された研修には、定員20名をはるかに超える74名が参加しました。熱気に包まれた会場では、講義のほかにグループワークが行われました。

今後は月1回程度、丸山が講師となり、職員向けの「認知症サポーター養成講座」を実施する予定です。将来的には、地域住民向けに講座を開くことも検討しています。

ペガサスでは、職員の認知症への理解をより深めるとともに、サポーターの輪を広げることで、地域で認知症の方を支える体制を率先して創り上げていきます。



医療福祉相談室
室長 丸山 秀幸

緊急時にあなたを守る、
＜命のカプセル＞を創りました。

馬場記念病院には重症度の高い患者さまが救急搬送されます。そのとき、より迅速、より適正な治療提供のため、ペガサスオリジナルの＜命のカプセル＞を製作しました。この＜命のカプセル＞とは、急病時に備え、ご自分の医療情報を記し、専用の容器に入れて保管するもの。今日では、さまざまな自治体などで作られ、65歳以上の方を中心に配られています。

実際には、氏名や住所、生年月日はもちろん、服用するお薬や治療中の病気、かかりつけ医療機関といった医療情報、また、緊急連絡先などを専門シートに記入し、プラスチック容器に入れて冷蔵庫の扉ポケットに保管しておきます。そして、冷蔵庫とお家のドアに専用ステッカーを貼り、救急隊が来たときすぐに解るようにするものです。

＜命のカプセル＞は、ペガサス地域包括ケアセンターが

管理して、訪問看護師やケアマネジャーなど、地域の皆さまと常に接点を持つ職員から直接お渡ししていきます。また、



お渡しただけでなく、皆さまの誕生日や9月9日（救急の日）に情報を更新するようにしています。

まずは当グループをご利用くださる皆さまから配付を始めており、1000個以上のご依頼をいただいています。今後はさらに充実した活動をめざしています。

お問い合わせ/
ペガサス地域包括ケアセンター
TEL:072-265-5568

9月 ペガサスセミナー

乳がん子宮がん
早期発見で笑顔の暮らし
～健やかな毎日を送るために～

講師:ペガサス健診センター
竹田奈菜

日時:9月29日(火)午後2時～3時
場所:馬場記念病院 1階ロビー

9月 ペルセウス介護
支援セミナー1人で頑張りすぎて
いませんか?
～ペガサスが支えます!～

講師:介護福祉士 今西 崇
日時:9月24日(木)午後2時30分～
場所:介護療養型老人保健施設
ペルセウス3階食堂

9月 ペガサスセミナー
和泉胃がんについて
もっと知ろう

講師:介護療養型老人保健施設
エクウス 施設長
馬場満記念クリニック 院長
医師 新田敦範
日時:9月24日(木)午後2時～3時
場所:介護療養型老人保健施設エクウス

10月 ロイヤルリゾート
健康相談会

10月開催プログラム

内容:おうちで出来る健康チェック
ペガサス予防体操
ジャグリング
日時:10月14日(水)
午後1時30分～3時
場所:ペガサスロイヤルリゾート

シリーズ 32 救急部

各診療科の当直医が救急を担当。
24時間365日、幅広い疾患・外傷に
迅速に対応しています。夜間、休日でも、
5人の当直医がスタンバイ。

馬場記念病院は二次救急医療機関(※)として、救急搬送の患者さまや時間外に来院された急病の患者さまの診察、治療を行っています。主な傷病は脳卒中、外傷、内科疾患などで、とくに脳卒中をはじめとした脳神経外科疾患については、地域の極めて重症な患者さまも引き受け、24時間365日いつでも緊急手術や最先端の脳血管内治療を行える体制を完備しています。

当院の救急部の特徴は、内科、外科、脳神経外科、整形外科、神経内科の医師5名が当直。昼夜を問わず、多様な領域の専門医が救急医療に力を尽くしているところにあります。一般的な二次救急医療機関では、当直医1~2名(内科系・外科系の医師)というところが多く、これほど充実した医師体制を整えているところは珍しいといえます。たとえば、疾患が特定できない意識障害の患者さまや、救急疾患のほかに持病を持っている高齢の患者さまであっても、当院では複数の診療科の医師が速やかに連携し、適切な治療を提供しています。

モットーは救急患者さまを
お断りしないこと。

救急医療の現場で心がけているのは、救急患者さまを決してお断りしないこと。その思いを全職員が共有し、一致団結して患者さまの受け入れに全力を注いでいます。たとえば職員の人数が減る夜間は、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師などが職域に関わらず協力して、患者さまの搬入から診察、検査、入院までの流れをサポートしています。こうした全員参加の救急体制は、外部機関による病院機能評価においても、最上級の評価を受けています。

常に救急患者さまを受け入れるには、緊急入院用のベッドの確保も重要です。当院では、病状の安定した患者さまからスムーズに転棟・転院していただくことにより、常にベッドの空きを確保するよう努めています。

また、緊急性のある患者さまを速やかに治療するために、救急隊との関係強化にも取り組んでいます。脳疾患が疑われるケースについては、救急隊から脳神経外科の医師へダイレクトに電話がつながる「脳卒中ホットライン」を運用。一分一秒を争う重篤な患者さまを、時間のロスなく検査・診断



救急部 部長 宇野淳二

し、治療へと繋げています。そのほか、救急隊の方々を対象に、救急医療の勉強会を開催したり、『脳卒中救急搬送ガイド(パンフレット)』を配布するなど、救急搬送に役立つ最新医療情報の提供にも力を注いでいます。当院と救急隊が緊密な関係を築くことで、この地域の救急患者さまに、最善の医療提供をめざしています。

救命処置の
普及に努めています。

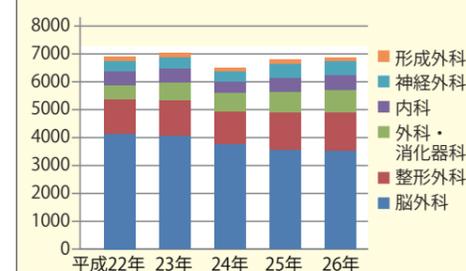
救急部では、救急看護領域において高度な専門知識・技術を身に付けた2名の救急看護認定看護師(※)を配置。患者さまの病態の緊急度・重症度に応じて、的確で迅速な看護を実践しています。

彼女たちが中心になって進めている活動の一つに、BLS(一次救命処置)研修の企画運営があります。これは、突然、倒れた人に対して、救急隊や医師に引き継ぐまでに行う、応急処置を学ぶ研修です。院内では、全職員が心肺蘇生の技術を習得することを目的に、研修を継続的に実施。院外では、地域の方々を対象にした応急処置のセミナーを積極的に開催し、いざというとき役立つ気道確保や心臓マッサージなどのスキルを指導しています。

救急医療を必要とする状況は、いつなるとき起こるかわかりません。地域の皆さまには、日頃から応急処置の技術を習得しておくとともに、地域の救急病院の特徴、対応可能な診療科などを把握して、万一の場合に備えておいてほしいと思います。

※救急看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが、日本看護協会より認められた看護師。

馬場記念病院 診療科別救急搬送件数



※二次救急医療機関とは

日本の救急医療は、患者さまの重症度に合わせて、一次(軽症)・二次(中等症)・三次(重症患者)に区分され、それぞれに対応した医療機関が定められています。馬場記念病院は、脳疾患については極めて重症な患者さまを受け入れることもできる、二次救急医療機関(入院や手術に対応)です。

TOPICS
1 ペガサスリハビリテーション病院
診療部医師2名を迎え、
診療体制がさらに充実しました。

ペガサスリハビリテーション病院では、この4月から小坂錦司医師(医長)、5月から後藤正樹医師を迎え、さらに充実した診療体制を整えました。

小坂医師は長年、消化器外科医として培ってきた経験をベースに、がん疾患の緩和ケア、手術後の廃用症候群の治療などを得意分野としつつ、回復期・療養期の患者さまの全身疾患を把握して、それぞれに適切な体調管理を行っています。小坂医師の診療におけるモットーは、「患者さまと視線を合わせ、大きな声でわかりやすくお話しすること」。患者さま一人ひとりとのコミュニケーションを大切に、丁寧な診療を心がけています。

後藤医師はリハビリテーション科専門医として、回復期の患者さまを担当しています。



リハビリテーション科専門医とは、病気や外傷などさまざまな原因で生じた障害を、総合的に診る医師のことです。急性期病院を退院して1カ月



小坂錦司医師(医長) 後藤正樹医師

ほどは、濃密なりハビリテーションを必要とする時期。後藤医師は患者さまが安心してリハビリテーションに専念できるように、内科的疾患の管理や合併症予防に力を注いでいます。めざすのは、「疾患や障害だけでなく、生活や家族背景まで把握し、患者さま全体を理解する医師になること」。後藤医師は「チーム医療の一員として、介護保険サービスや社会資源の活用についても理解を深め、患者さまがご自宅に戻れるように、あるいは介護施設などに入所できるようにお手伝いしていきたい」と意欲を燃やしています。

ペガサスリハビリテーション病院では、この2名の医師を加えた合計6名の医師を筆頭に、看護師、リハビリテーションスタッフ、薬剤師、社会福祉士、臨床心理士、管理栄養士など多職種が力を合わせ、患者さまの早期社会復帰を支援しています。

TOPICS
2 ペガサスグループ
ペガサス認定制度ペガサス独自の認定資格制度。
医療の質の向上をめざして。

社会医療法人ペガサスでは、救急・急性期・回復期・慢性期・在宅医療まで、継続ケアの視点からすべての領域における、医療の質の向上に全力を注いでいます。職員に対する教育にもさまざまな機会を整えるなか、その一つとして、ペガサス独自の認定資格制度があります。

これは、対象とする特定分野において、優れた能力を有する職員を評価するものでもあり、より専門性を高めるとともに、自らのキャリアアップを図ることで、患者さまや地域

の皆さまへの質の高い医療の提供へと繋ぐものです。

ペガサス認定資格には、現在、<認定看護師><機能訓練士><認定摂食・嚥下訓練士>の三分野があります。それぞれに対象分野での継続勤務年数、研修受講回数など、応募資格を定めるとともに、看護部、リハビリテーション部、栄養サポートチームが主管となって認定要件や筆記試験などを策定、実施。最終的には、法人本部が主催する認定委員会が審査し、適正と判断される人材に認定資格を与えます。

今後は、資格取得者を増やすとともに、必要に応じて新たな認定資格も増設するなど、より優れた継続ケアの担い手育成に努めていきます。

■認定看護師	8名	対象は看護師。救急看護、脳卒中看護、急性期看護、回復期看護、医療安全、感染管理、訪問看護の7分野。専門性の高い看護を実践。病棟看護師らをリードし、看護の質の向上を図る。
■認定機能訓練士	7名	リハビリテーションスタッフ以外で、機能訓練に携わる職員が対象。通所系サービス事業所において、ご利用者を身近に見つめ、生活のなかでの機能訓練を実践、サポートする。
■認定摂食・嚥下訓練	14名	全職員が対象。高齢者や認知症を持つ方々の食べる、飲み込むといった機能を評価。病態の変化を正確に見つめ、適正な薬の服用、口からの食事、その形態などを提案する。

※資格取得者数は、いずれも平成27年8月現在